

NOBORIBETSU



# の 広報 ぼりべつ

'93

9.1

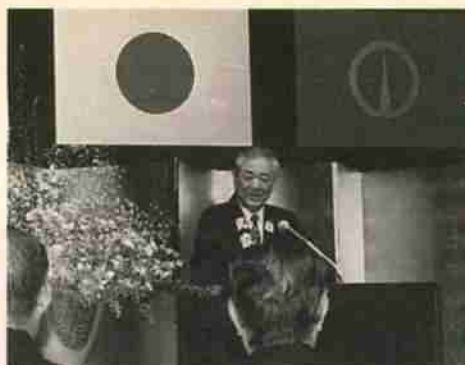
No.515

# 妹都市提携 念祝賀会

昭和五十八年十月二十六日宮城県の白石市と結んだ姉妹都市の提携は、今年で十周年を迎え、八月二十一日市民手作りによる記念祝賀会が開かれました。

記念祝賀会には、白石市から川井貞一市長、高橋喜多雄市議会議長ほか約五十人が出席、登別市からは、市長はじめ各界関係者、市民約三百五十人が出席しました。

祝賀会では、姉妹都市提携十周年記念事業実行委員会委員長上田邦男（姉妹都市交流推進協議会会長）が「形式的、儀礼的な縁結びではなく、お互いの真実で結ばれ本日を迎えました。次代を担う子供達の交流を続けることは将来にわたり両市の発展に大きな役割を果たします」とあいさつし、上野登別市長が「十周年を迎え、これまでの実績を礎に、更なる発展へ向けまい進したい」。次に、川井白石市長が「お互いにせっせとくまじ、姉妹都市の提携が更に大きく両市の発展につながることを期待



川井白石市長



上野登別市長



盛り上がる祝賀会場を白石市の半てんを着てあいさつする上田実行委員長



## サッカーで 元気いっぱい 友好プレー



友好を深めたサッカーの交流試合

少年スポーツ交流事業は、昭和62年の柔道と剣道の白石市訪問から始まり、野球、サッカーと相互訪問交流を行っています。8月10日白石市よりサッカースポーツ交流団一行46名（役員、父母17名、選手29名）が登別市を訪れました。翌日の11日に交流試合を予定

していましたが、台風7号の到来が予想されたため急きょ試合となり、白石市の選手の皆さんには、強行軍となってしまいました。富岸小学校で行われた試合は、登別市内のサッカースポーツ少年団から選抜された選手（30人）と白石市チームがそれぞれ2チームに分かれ対戦。姉妹都市交流推進協議会の上田邦男会長のキックオフで始まり、強風にもめげず、4試合元気いっぱいのプレーで友好を深めました。

試合後は、市民会館で選手の紹介や記念品の交換など和やかに歓迎交流会が行われ、また白石市の選手の皆さんを迎える、ホームステイ先家族の皆さんも紹介されました。



記念品のTシャツを受けとる両チームの代表

## 白石市物産展



市民の間で恒例となった白石物産展

姉妹都市交流事業は、八月一日号でお知らせしてありますが、「白石市物産展」、「少年スポーツ交流」、「ふるさと豆記者訪問」の様子について特集します。

姉妹都市物産交流事業としての「白石物産展」は、昭和59年から白石市と相互に開いています。昭和62年から刈田神社祭典に合わせて、今年も22日からの3日間開かれました。会場内には、こけしやけん玉などの民芸品、温麺、笹かま、ササニシキ、地酒などがずらりと並び、祭り見物の市民でにぎわいました。また、白石のもち米を使ったもちつき大会や弥治郎こけしの職人新山左京さんによるこけし作りの実演があり職人の技に目を見張っていました。



こけし作りを始めて46年のベテラン新山左京さん

# 登別・白石姉妹 10周年記

十周年を記念して、白石市と白石市議会から登別市と同議会に記念の「こけし」が贈られ、白石市の直派若柳流宗、会主、若柳宝梅さんら五人による長唄「伊達政宗」や「さんざん時雨」の舞と祝いの唄が披露されました。鏡割りのあと、祝宴に入り登別市婦人団体連絡協議会の皆さんによる手作りのほつき貝入りのおにぎりやいなりすし、屋台に並んだラーメンや、温麺などの料理に出席者は舌鼓を打ち、各テーブルでは、白石市の皆さんとの会話がはずみ、和やかな交流の花があちこちで咲いていました。アトラクションの「北海自衛太鼓」の披露のあと、十一月十二日、白石市側の記念祝賀会での再会を約束して、祝賀会はお開きとなりました。

祝賀会の後白石市の皆さんは、マリンパークを見学し登別温泉に宿泊。翌日は登別伊達時代村、天華園などを見学して、午後千歳空港へ向けて出発しました。



祝いの舞を披露する若柳宝梅さん(中央)



両市の市民約400人が出席しての記念祝賀会



手作りの料理が祝賀会に彩りをそえました



鏡割りは、白石市の銘酒「蔵王」



白石商工会議所提供の「テレホンカード展」



太鼓の音が10年の節目をお祝い

## ふるさと 豆記者訪問

姉妹都市白石市に行つて

富岸小学校 八柳貴子さん

白石市の町は水田が多く、家の屋根はかわらでできていました。こけし、うーめん工場、和紙工場などを見学して、橋のたもとには一軒位の大きなこけしがありました。そして建設中の白石城は石垣ができて、平成七年三月に完成するそうです。私がい出に残ったのは、こけしの里でした。そこでこけし作りをしていただいたおじさんは、こけしを何本も同じ大きさに削っていたので、すこいなあと思いました。白石市に行つて良い体験になりました。



▲こけしの絵付けに挑戦



ふるさと豆記者訪問は、未来を担う小学生に白石市をもっと理解してもらおうと、姉妹都市小中学校交流事業実行委員会が昨年か行っている事業です。今年には青葉小学校と富岸小学校から各五名、合わせて十名の六年生が選ばれ八月一日から三日の日程で白石市の小学校を訪問しました。

豆記者の代表二名(紙面の都合で各校一名の掲載)の感想です。



▲「はじめまして」と手作りの名刺を交換

白石市へ行って感じたこと

青葉小学校 江良賢輔さん

八月一日に白石へ出発して、こけしの絵付けや、学校訪問などをしてきました。こけしの絵付けでは、みんな真剣に書いて上手にできました。学校訪問では、白石市の様子などを聞きました。古い歴史があるんだなあと感じました。話を聞いた後、白石の小学生と友達になつて一緒に外で遊び、とてもおもしろかったです。僕は、六年生の夏休みにふるさと豆記者で白石市に行つたことは、ずっと忘れないと思います。

## 谷は眠っていた 登別公演

10月3日(日) 午後6時00分開場 登別市民会館大ホール  
午後6時30分開演

### 感動の舞台を登別で

テレビドラマ「北の国から」などでおなじみの脚本家倉本聰氏が主宰する劇団富良野塾が登別にやって来ます。  
この公演は、「感動の舞台をせむ、登別で」と意欲を燃やす市内の若者グループが呼びかけ人となり、ESP（イベントスポーツクラブ）、登別子ども劇場、子ども会シニアリーダーの会メイキング・バスル、登別青年会議所、登別地区労、図書連絡会が参加し、実行委員会（実行委員長 畑山弘登別青年会議所理事長）を作成し、実現したものです。  
実行委員会では、今、公演の成功に向け、精力的に準備に取り組んでいます。

富良野塾は、倉本氏が十年前富良野市郊外の原野を切り拓き開設した役者、シナリオライターの養成塾です。全国から役者、脚本家を目指す若者が集まり基礎を築きました。

今回の公演「谷は眠っていた」は、若い塾生たちの「汗を流し、生き生きと学び、生活する成長記録」を舞台化したもので、彼らにとっては、まさに自分たちが過こ

してきた塾での「青春」を丸ごとぶつけた舞台と言えます。

北の厳しい自然と対峙しながらの農作業、丸太の皮むきから始まるログハウス作り、労働に終われなくタタタになりながらの授業、焦りと競争心から深夜自主的に行われるダンスの稽古——などを通して、芝居にかける彼らの孤独とひたむきな姿そして徐々に成長して行く青年たちの姿が感動的に描か

れています。

親子の対話不足とか若者の無感動状況と言われる今日、実行委員会では、この舞台を若者ばかりではなく、青春の入口で思い悩み、迷う若者を見ながら、会話の糸口を見い出せないでいる大人たちこそ観てもらいたいと話しています。



特別出演/天宮 良



### 倉本 聰氏のメッセージ

あなたは文明に麻痺していませんか  
車と足はどっちが大事ですか  
石油と水はどっちが大事ですか  
知識と知恵はどっちが大事ですか  
理屈と行動はどっちが大事ですか  
批評と創造はどっちが大事ですか  
あなたは感動を忘れていませんか  
あなたは結局何のかのど云いながら、わが世の春を謳歌していませんか

十年前塾を創設したとき、紙きれに書き付けた起草案である。

あの頃、初期の塾生たちは、将にこの文をなぞるかの如く徒手空拳で塾の礎を築いた。そして十年。今猶塾は、彼等の敷いたレールの長さを、ゆっくり着実に延して来ている。

初期から深い関わりを持ってきた天宮良の特別出演を得て、我等が塾の創設期のドキュメント「谷は眠っていた」をここにお贈りする。

平成5年秋 倉本 聰

### 入場料

一般 3,000円  
中・高校生 2,000円  
〔全席自由〕

### チケット取扱い

登別青年会議所  
事務局 ☎1468

登別子ども劇場  
事務局 ☎2511

市企画調整室  
☎1122

感動を知らない若者がいる  
感動を知っている若者がいる  
感動を求めている若者がいる

富良野塾公演 1993

# 9月9日は「救急の日」

「正しい応急処置で尊い生命を救いましょう」



今年4月、市消防本部に配備された最新救急車。心電図システムや患者監視モニター、自動車電話などのハイテク装置を装備し、より高度な応急処置が可能になりました。

万一のため、身につけておこう 応急処置

もしも、あなたの目の前で自分の子供の呼吸がと絶えているとしたら、救急隊員が到着するまでの間、先ずあなたが何とかしなければなりません。

こんなとき、あなたにわずかもそ生法の知識があれば、応急処置を行うことができます。

でも、その方法を知らないとしたら、それまでの貴重な時間をただ見守るだけで過ごさなければなりません。

命にかかわるようなとき、わずかでも応急処置の方法や知識を身につけておくか、いないかが、その明暗を大きく分けます。

消防署は、より多くの方にこの応急処置の方法や知識を学び、身につけていただくため、ご要望があればいつでも無料で救急講習会を開きます。

あなたも、確実な人工呼吸法やけがの際の応急手当などを学び、万一のときに備えませんか。

## 救急講習会の申し込み

▽申込方法 希望の日時・参加人数を市消防署(☎2551)へ

▽対象者 個人の集まり、団体などなたでも申し込みます

▽開催人員 十名以上で行います

▽場所 消防署(参加者が多い場合は、職員が希望の場所へ出向きます)

## 正しい救急車の利用法

### ◆救急車を利用できる場合◆

① 火災等の災害によって負傷者が出たとき

② 屋外や公衆の出入りする場所で、負傷者や急病人が出たとき

③ 屋内で負傷者や急病人が出たときなどで、緊急に医療機関に搬送する必要がある他に搬送する手段がないとき

◆救急車を利用できない場合◆

① 軽い病气やけがの傷病人で、緊急に搬送する必要のないとき  
② 病气やけがのない泥酔者の搬送やタクシーがわり

## 救急医療週間(9月5日~11日)の行事

### <一日救急隊長の「救急の日」PR>

「救急の日」に保健婦さんが一日救急隊長になり、皆さんに救急業務への正しい理解と認識を持っていただくため「救急の日」のPRを行います。

▷月日 9月9日(木)

### <救急車の展示と応急処置のビデオ放映>

市役所裏駐車場で、救急車と応急処置器材の展示を行います。ただし、救急出動時及び雨天時は中止します。

市役所市民ホールで、応急処置のビデオ放映・パネル展示を行います。

▷日時 9月10日(金)午前10時から午後3時まで

### <救急講習会の開催>

万一のときに応急処置できるように、心肺そ生法やけがなどの際の応急手当の方法の講習会を開きます。

▷日時 9月11日(土)午後1時から午後4時まで

▷場所 市役所第2庁舎2階会議室

▷内容 心肺そ生法等の実技講習

▷定員 30名(申込順)

▷申込方法 9月10日(金)までに市消防署(☎2551)へ

## あなたにもできる心肺そ生法

意識のないときは



気道の確保

気道確保は、最も重要なそ生法の基本です。舌の根元が気道をふさがないようにしましょう。

図のように頭を後方に曲げ、あごを上方に突き出す方法や、指を口の中に入れ、あごを引き上げる方法などがあります。

呼吸をしていなければ



人工呼吸

1. 患者の鼻をつまむ。
2. 口を大きく開いて患者の口を覆い、息を吹き込む。(幼児は、口と鼻を同時に覆う。)
3. 胸が動くのを確かめながら5秒に1回の割合で繰り返す。

脈が止まっているときは



心マッサージ

胸骨の下半分に手のひらを重ねておき、体重を利用して、1秒間に1回胸骨を圧迫する。その時、5回に1回人工呼吸を併用する。

救助者が1人の場合は、少し早めの心マッサージ15回と人工呼吸2回を交互に繰り返す。

# 災害に備えて

自然の力は計りしれません。地震や台風・集中豪雨などによる災害は、私たちの財産ばかりでなく、命さえも奪い取ってしまう危険性をもっています。

登別市は地形上の特徴もあって局地的に、短時間に強い雨が降ると言われ、過去数度にわたり大雨による大災害が発生しています。

また、今年は一月十五日(釧路沖地震)、七月十二日(南西沖地震)と二度にわたる大地震が発生し、道内各地に大きな被害をもたらしました。

市は、これらの災害発生に備えて二年ごとに防災総合訓練・水防訓練を行っています。今年も、七月二十九日に登別温泉小学校グラウンドで、関係二十一団体三百八十名が参加し、雨の中本番さながらに、避難訓練・炊き出し訓練など十六項目にわたる訓練を行いました。

大雨や地震に対する確かな判断を行い、万一の場合にはいち早く避難行動を起こし、人的被害を出さないようにすることは、私たち自



400人分のおにぎりや豚汁をつくった炊き出し訓練

身の生命に対する責任です。大雨や地震が発生したら、何に注意し、どのような行動をとるべきか、防災について考えてみましょう。

## 大雨や地震の備えは

できていますか

- ◎家の回りの排水をよくするため排水溝にたまってある泥やゴミなどを取り除きましょう。
- ◎火気器具は、日ごろから点検・整備をしておきましょう。
- ◎プロパンガスボンベ、灯油カンなどの流れやすい物、倒れやすい物は、ロープなどでしっかりと固定しましょう。
- ◎家具・大型電気製品などは転倒や移動の防止をしておきましょう。
- ◎貴重品など非常持ち出し品を準備しておきましょう。
- ◎ふだんから防災に関する知識を身につけておくとともに、もしものときの家族の役割分担や避難所の確認をしておきましょう。

## 確認しておきましょう あなたの避難場所

市は、災害のとき一時的に避難し、様子を見るための第一次避難所(公園や広場、グラウンドなど)と、災害で避難した人達を収容する第二次避難所を設けています。万一の災害に備えて自分の避難場所を確認しておきましょう。

| 地区   | 避難所の名称          | 所在地       |
|------|-----------------|-----------|
| カルルス | カルルスサウスコートグラウンド | カルルス町一    |
| 登別温泉 | 登別温泉小学校グラウンド    | 登別温泉町一八四  |
| 登別温泉 | 登別温泉中学校グラウンド    | 登別温泉町一三三  |
| 登別温泉 | 登別温泉ゲート前駐車場     | 登別温泉町二二四  |
| 登別   | 登別ビーチパーク        | 登別東町一丁目   |
| 登別   | 登別中学校グラウンド      | 登別本町一丁目   |
| 登別   | 旭 公園            | 登別本町一丁目一八 |
| 登別   | 登別小学校グラウンド      | 登別本町三丁目二五 |
| 登別   | 札内小中学校グラウンド     | 札内町七三三    |
| 登別   | 札内中学校グラウンド      | 千歳町三丁目一   |
| 登別   | 市宮路上競技場         | 千歳町三丁目四   |
| 登別   | つくし 公園          | 千歳町四丁目五   |
| 登別   | さずらん 公園         | 千歳町六丁目一   |
| 登別   | しおみ 公園          | 鶴別町二丁目二五  |
| 登別   | 鶴別一 公園          | 鶴別町四丁目一九  |
| 登別   | 鶴別東小学校グラウンド     | 鶴別町八丁目一六  |
| 登別   | 常盤 公園           | 常盤町二丁目三五  |
| 登別   | 東 公園            | 中央町一丁目一三  |
| 登別   | 西 公園            | 中央町三丁目一〇  |
| 登別   | 中央 公園           | 中央町三丁目二一  |
| 登別   | 北 公園            | 中央町五丁目二〇  |
| 登別   | 鶴別小学校グラウンド      | 中央町六丁目一九  |
| 登別   | 緑ヶ丘 公園          | 中央町七丁目三〇  |
| 登別   | 柏木 公園           | 柏木町一丁目二八  |
| 登別   | もみじ 公園          | 柏木町三丁目三六  |
| 登別   | 富士二号 公園         | 富士町五丁目七   |
| 登別   | 富士一号 公園         | 富士町七丁目一   |
| 登別   | 登別市民会館駐車場       | 富士町七丁目三三  |
| 登別   | 西陵中学校グラウンド      | 片倉町五丁目二二  |
| 登別   | 鶴別西小学校グラウンド     | 片倉町五丁目二三  |
| 登別   | 新川 公園           | 新川町三丁目七   |
| 登別   | かえで 公園          | 新川町四丁目無   |

| 地区   | 避難所の名称        | 所在地       |
|------|---------------|-----------|
| 登別温泉 | 登別温泉公民館       | カルルス町二七   |
| 登別温泉 | 登別温泉小学校       | 登別温泉町一七   |
| 登別温泉 | 登別温泉中学校       | 登別温泉町二二三  |
| 登別   | 登別市立総合体育館駐車場  | 若山町三丁目二六  |
| 登別   | 市民研修センターグラウンド | 鶴山町八      |
| 登別   | 登別市立総合体育館駐車場  | 若山町三丁目二六  |
| 登別   | 青葉小学校グラウンド    | 青葉町三二三    |
| 登別   | 青葉小学校グラウンド    | 若山町三丁目二六  |
| 登別   | 大和町二丁目三三      | 大和町二丁目三三  |
| 登別   | 富岸町二丁目一       | 富岸町二丁目一   |
| 登別   | 富岸町二丁目二       | 富岸町二丁目二   |
| 登別   | 富岸町二丁目三       | 富岸町二丁目三   |
| 登別   | 富岸町二丁目四       | 富岸町二丁目四   |
| 登別   | 富岸町二丁目五       | 富岸町二丁目五   |
| 登別   | 富岸町二丁目六       | 富岸町二丁目六   |
| 登別   | 富岸町二丁目七       | 富岸町二丁目七   |
| 登別   | 富岸町二丁目八       | 富岸町二丁目八   |
| 登別   | 富岸町二丁目九       | 富岸町二丁目九   |
| 登別   | 富岸町二丁目一〇      | 富岸町二丁目一〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目一一      | 富岸町二丁目一一  |
| 登別   | 富岸町二丁目一二      | 富岸町二丁目一二  |
| 登別   | 富岸町二丁目一三      | 富岸町二丁目一三  |
| 登別   | 富岸町二丁目一四      | 富岸町二丁目一四  |
| 登別   | 富岸町二丁目一五      | 富岸町二丁目一五  |
| 登別   | 富岸町二丁目一六      | 富岸町二丁目一六  |
| 登別   | 富岸町二丁目一七      | 富岸町二丁目一七  |
| 登別   | 富岸町二丁目一八      | 富岸町二丁目一八  |
| 登別   | 富岸町二丁目一九      | 富岸町二丁目一九  |
| 登別   | 富岸町二丁目二〇      | 富岸町二丁目二〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目二一      | 富岸町二丁目二一  |
| 登別   | 富岸町二丁目二二      | 富岸町二丁目二二  |
| 登別   | 富岸町二丁目二三      | 富岸町二丁目二三  |
| 登別   | 富岸町二丁目二四      | 富岸町二丁目二四  |
| 登別   | 富岸町二丁目二五      | 富岸町二丁目二五  |
| 登別   | 富岸町二丁目二六      | 富岸町二丁目二六  |
| 登別   | 富岸町二丁目二七      | 富岸町二丁目二七  |
| 登別   | 富岸町二丁目二八      | 富岸町二丁目二八  |
| 登別   | 富岸町二丁目二九      | 富岸町二丁目二九  |
| 登別   | 富岸町二丁目三〇      | 富岸町二丁目三〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目三一      | 富岸町二丁目三一  |
| 登別   | 富岸町二丁目三二      | 富岸町二丁目三二  |
| 登別   | 富岸町二丁目三三      | 富岸町二丁目三三  |
| 登別   | 富岸町二丁目三四      | 富岸町二丁目三四  |
| 登別   | 富岸町二丁目三五      | 富岸町二丁目三五  |
| 登別   | 富岸町二丁目三六      | 富岸町二丁目三六  |
| 登別   | 富岸町二丁目三七      | 富岸町二丁目三七  |
| 登別   | 富岸町二丁目三八      | 富岸町二丁目三八  |
| 登別   | 富岸町二丁目三九      | 富岸町二丁目三九  |
| 登別   | 富岸町二丁目四〇      | 富岸町二丁目四〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目四一      | 富岸町二丁目四一  |
| 登別   | 富岸町二丁目四二      | 富岸町二丁目四二  |
| 登別   | 富岸町二丁目四三      | 富岸町二丁目四三  |
| 登別   | 富岸町二丁目四四      | 富岸町二丁目四四  |
| 登別   | 富岸町二丁目四五      | 富岸町二丁目四五  |
| 登別   | 富岸町二丁目四六      | 富岸町二丁目四六  |
| 登別   | 富岸町二丁目四七      | 富岸町二丁目四七  |
| 登別   | 富岸町二丁目四八      | 富岸町二丁目四八  |
| 登別   | 富岸町二丁目四九      | 富岸町二丁目四九  |
| 登別   | 富岸町二丁目五〇      | 富岸町二丁目五〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目五一      | 富岸町二丁目五一  |
| 登別   | 富岸町二丁目五二      | 富岸町二丁目五二  |
| 登別   | 富岸町二丁目五三      | 富岸町二丁目五三  |
| 登別   | 富岸町二丁目五四      | 富岸町二丁目五四  |
| 登別   | 富岸町二丁目五五      | 富岸町二丁目五五  |
| 登別   | 富岸町二丁目五六      | 富岸町二丁目五六  |
| 登別   | 富岸町二丁目五七      | 富岸町二丁目五七  |
| 登別   | 富岸町二丁目五八      | 富岸町二丁目五八  |
| 登別   | 富岸町二丁目五九      | 富岸町二丁目五九  |
| 登別   | 富岸町二丁目六〇      | 富岸町二丁目六〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目六一      | 富岸町二丁目六一  |
| 登別   | 富岸町二丁目六二      | 富岸町二丁目六二  |
| 登別   | 富岸町二丁目六三      | 富岸町二丁目六三  |
| 登別   | 富岸町二丁目六四      | 富岸町二丁目六四  |
| 登別   | 富岸町二丁目六五      | 富岸町二丁目六五  |
| 登別   | 富岸町二丁目六六      | 富岸町二丁目六六  |
| 登別   | 富岸町二丁目六七      | 富岸町二丁目六七  |
| 登別   | 富岸町二丁目六八      | 富岸町二丁目六八  |
| 登別   | 富岸町二丁目六九      | 富岸町二丁目六九  |
| 登別   | 富岸町二丁目七〇      | 富岸町二丁目七〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目七一      | 富岸町二丁目七一  |
| 登別   | 富岸町二丁目七二      | 富岸町二丁目七二  |
| 登別   | 富岸町二丁目七三      | 富岸町二丁目七三  |
| 登別   | 富岸町二丁目七四      | 富岸町二丁目七四  |
| 登別   | 富岸町二丁目七五      | 富岸町二丁目七五  |
| 登別   | 富岸町二丁目七六      | 富岸町二丁目七六  |
| 登別   | 富岸町二丁目七七      | 富岸町二丁目七七  |
| 登別   | 富岸町二丁目七八      | 富岸町二丁目七八  |
| 登別   | 富岸町二丁目七九      | 富岸町二丁目七九  |
| 登別   | 富岸町二丁目八〇      | 富岸町二丁目八〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目八一      | 富岸町二丁目八一  |
| 登別   | 富岸町二丁目八二      | 富岸町二丁目八二  |
| 登別   | 富岸町二丁目八三      | 富岸町二丁目八三  |
| 登別   | 富岸町二丁目八四      | 富岸町二丁目八四  |
| 登別   | 富岸町二丁目八五      | 富岸町二丁目八五  |
| 登別   | 富岸町二丁目八六      | 富岸町二丁目八六  |
| 登別   | 富岸町二丁目八七      | 富岸町二丁目八七  |
| 登別   | 富岸町二丁目八八      | 富岸町二丁目八八  |
| 登別   | 富岸町二丁目八九      | 富岸町二丁目八九  |
| 登別   | 富岸町二丁目九〇      | 富岸町二丁目九〇  |
| 登別   | 富岸町二丁目九一      | 富岸町二丁目九一  |
| 登別   | 富岸町二丁目九二      | 富岸町二丁目九二  |
| 登別   | 富岸町二丁目九三      | 富岸町二丁目九三  |
| 登別   | 富岸町二丁目九四      | 富岸町二丁目九四  |
| 登別   | 富岸町二丁目九五      | 富岸町二丁目九五  |
| 登別   | 富岸町二丁目九六      | 富岸町二丁目九六  |
| 登別   | 富岸町二丁目九七      | 富岸町二丁目九七  |
| 登別   | 富岸町二丁目九八      | 富岸町二丁目九八  |
| 登別   | 富岸町二丁目九九      | 富岸町二丁目九九  |
| 登別   | 富岸町二丁目一〇〇     | 富岸町二丁目一〇〇 |



### 台風等が近づいたら

#### 地震が発生したら

◎ テレビ、ラジオなどの気象情報・地震、津波情報に注意しましょう。

◎ 家屋の浸水に備え、低いところにある電気製品などは二階の高いところに移しましょう。

#### ◎ 地震が発生したときは

・ 家族みんなが「火を消せ」と声を出し、火の元をすべて点検しましょう。

・ テーブルや机の下など安全な位置に身を寄せましょう。

・ 閉じ込められないよう、すぐに玄関のドアなどを開けましょう。

・ 余震にそなえ、安全な場所まで過ごしましょう。

・ 電話はかかりにくくなるため、不要不急の電話は控えましょう。

◎ 停電に備えて、懐中電灯、携帯ラジオを用意しましょう。

◎ 断水にそなえ飲料水を確保しておきましょう。

◎ 被害にあつたとき、また被害にあいそうなときは、速やかに市役所(☎2111)・警察(☎110)・消防(☎119)に連絡しましょう。

#### 避難するときのために

#### ◎ 家族との連絡

家族が離ればなれになったときの連絡方法や集合場所をあらかじめ

決めておきましょう。また、子供やお年寄りには住所、氏名、生年月日、血液型、電話番号、保護者氏名等を記した「身分確認証」を身につけておきましょう。

#### ◎ いつでも避難できるように

非常用食料は二三日分、下着靴下を数枚、毛布、レインコート、懐中電灯、携帯ラジオ、ろうそく、ライター、マッチ、予備の電池などを用意しておきましょう。

#### ◎ 洪水のときの避難

洪水のときに避難する場合は、足元に注意し、子供やお年寄りに十分気を配りましょう。

歩ける深さ成人男性で七十センチメートル、女性で五十センチメートルです。水深が腰まであるような場合は、無理をしないで、高いところで救助を待ちましょう。ひもでしめられる運動靴等を用意しましょう。

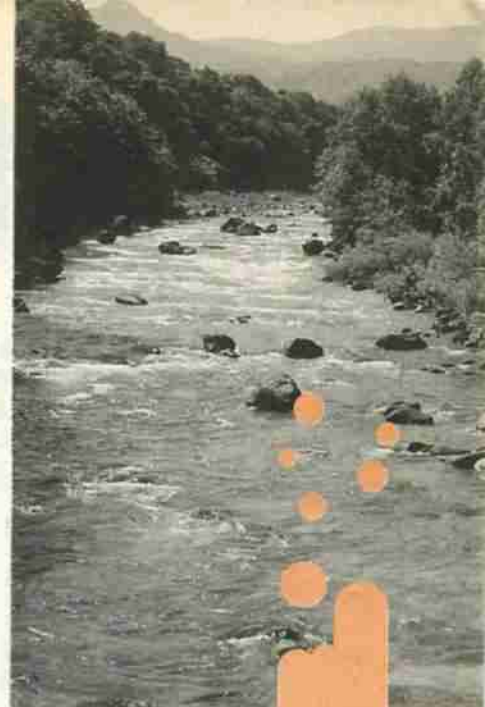
#### ◎ 地震のときの避難

海沿いに住んでいる場合は、地震のときは避難の用意をしましょう。強い地震では、津波警報を待たずにとまかく避難をしましょう。行楽で海へ出掛けている場合、どんな地震でも高台か内陸部めざして素早く避難しましょう。

崖の近くにいるときはその場を離れ、崩落や倒壊のあるような地形や建造物のそばに住んでいる場合はともかく避難して様子を見ましましょう。

| 登別温泉  | 登別   | 登                                   | 富浦                                  | 礼内                                    | 別  | 網  |
|---|--|-------------------------------------|-------------------------------------|---------------------------------------|--|--|
| 登別温泉保育所<br>老人憩いの家<br>登別 公民館<br>登別 児童館<br>老人憩いの家 沙見の家<br>老人憩いの家 センター | 登別 児童館<br>老人憩いの家 翠の家<br>登別 中学校<br>老人憩いの家 美善の家<br>登別 少年会館<br>登別 小学校 | 富浦 児童館<br>富浦 会館<br>富浦 小学校<br>登別 小学校 | 富浦 児童館<br>富浦 会館<br>富浦 小学校<br>登別 小学校 | 礼内 小学校<br>老人憩いの家 借楽園<br>老人憩いの家 すずらんの家 | 千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇<br>千歳町三丁目一〇 | 登別市役所第二庁舎<br>網 別 小学校<br>常盤婦人研修の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家<br>老人憩いの家 常盤の家 |

| 登別  | 網  | 登  | 富浦   | 礼内   | 別   | 網   |
|---|--|--|--|--|---|---|
| 老人憩いの家 梅の木の家<br>西陵 中学校<br>網 別 西小学校<br>新川婦人研修の家<br>老人憩いの家 藤家の家<br>老人憩いの家 藤家の家<br>老人憩いの家 藤家の家<br>老人憩いの家 藤家の家<br>老人憩いの家 藤家の家<br>老人憩いの家 藤家の家<br>老人憩いの家 藤家の家<br>老人憩いの家 藤家の家<br>老人憩いの家 藤家の家 | 新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五<br>新川町三丁目一五 | 若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六<br>若山町三丁目二六 | 富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七<br>富浦町三丁目一七 | 大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七<br>大和町三丁目二七 | 登別市総合体育館<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家<br>老人憩いの家 若山の家 | 青葉町三<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九<br>若山町二丁目九 |



# 「幌別川」の自然とその魅力

市民会議「いきいき人とまち推進会議」△自然と生活との調和▽部会で活動しているうちに、生態系は人もその一部であり大切であると気づくようになりました。

そんな中で、鉾山町から幌別町に流れる一本の川「幌別川」に関わっている会、

「(財)日本釣振興会」「ヨシキリの会」「幌別川を育てる会」の皆さんに、幌別

川の自然とその魅力をそれぞれの立場から対談式でお聞きすることにしました。

「ヨシキリの会」として活動を始めた。

目的としては、とにかく自然を楽しみたい。楽しんで自然を見ているうちに生態系も必要だと分かってくる。人間も入って生物全体の微妙なバランスがあるという事が身に染みて来て、その全体を取り組みたいと思うようになってきました。

幌別川に関わるきっかけは、自宅が幌別川のすぐそばにあり、生活の一部であって、散歩など気軽に関わっている人達が多い、こんなにもちよこちよこいける自然は室蘭を含め、見回してもどこにもないのではないだろうか。そういう意味で大切な場所と思えば、それではどのように関わったらもつとみんながみれるだろうか、そんな仲立にもなりたいたと考えたんです。

たまたま会の四人が「日本野鳥の会」のメンバーだったという共通点もあり、鳥を中心に見て来ました。

## 「砂防ダムに漁道ができるような川に戻るといいですね。」

「(財)日本釣振興会」 黒澤 友義さん

【驚別町在住68歳】



▲話が盛り上がった対談風景。(幌別川を育てる会)事務局・千葉征紀宅にて)

最近自然を使ったゲームを取り入れて活動をしています。

中川■わたしは平取出身で子供の頃から川で釣りをしていました。登別に来たのは昭和四十一年で、ちょうどダムができた頃。幌別川を上ってきて一番関心したのは川、清流の美しさでした。陰の沢橋の近くの川の大きな淵が緑色でここに魚がいはいはずはないと思っ釣りをしましたが、全く釣れなかった。こんなすばらしい自然が、わずか10分

足らずで来れる川があるのに魚がいなのは淋しいと思っていました。

「幌別川を育てる会」は今年二月に一般市民、自然愛好家、釣り人が集まり、この川にヤマベの稚魚・卵放流をしてダム湖にサクラマスが発生させ、もう一度、自然生態系を復元するための一助になろうという趣旨で発足。

釣り人の立場から言えば、道内河川では釣り人が多いのと、禁漁河川が多いため釣りにはならず、遊漁者の皆さんもこのままではいけないなと思っているのも事実のほうです。

今、会では、欧米型のA釣つたら放すV「キャッチ・アンド・リリース」を、そして体長、数などを制限した「マナーのある釣り」を呼びかけています。

わたしの知る限りでは日本にそのような河川はないので、もしこれが実現できれば日本初めてのモデルケースとなり、やがてこの事が伝わって道内はもとより日本中に広まっていけば非常にいいなと思ってたずさわっています。

黒澤■幌別川は危険な所が無く子供達を安心して遊ばせることができました。



【ヨシキリの会】白鳥テラスでの探鳥会

## 市民リポーター

リポーター▶

高見 八代美

【登別東町在住 34歳】







陰の沢付近は春はヤマツツジが、秋は紅葉がとともきれいでしたね。  
伴野 ■ 西小学校に通っていましたが、すぐそばにある川で学校帰りによく寄り道しておき水を飲んだり、石をばぐってザリガニなどいろいろ見つけたり、川で泳いだりして遊びました。

中川 ■ 伏流(地下を流れている水)して水が流れるからわき水も出て、サケもそのわき水の所で産卵するんですよ。

黒澤 ■ ダムが出来てから、約二十年間コイ・ニジマス・フナ・ヘラブナなど放流。子供達を集めて釣り大会を始めたのもそのころからですね。  
伴野 ■ 体験する場が少ない現在、身をもって知っている我々が子供達に手をかしてまだある残っている所を未来迄ずっと残したいなと思っています。

私たちが無意識のうちに聞いている野鳥のさえずりは自然のBGMのようなものでこのさえずりがまずあって、そこから歌ができたとも言われています。害虫の繁殖を抑える役目以外に人間に非常に良い役目をしていきます。  
幌別川には約百三十種類の鳥がいます。野鳥にとって幌別川は二つ意味のある川なんです。一つは干潟。単に水

際で泥がたまっているだけではなく、その中に虫や色々な生き物が生きて水鳥がきて食べるのですが、胆振地方に沢山川があっても干潟はないんです。ところが、幌別川の鉄橋の近くに本当にわずかなのですがあるんです。幌別は渡り鳥のコースになっているのでそこに時々珍しい鳥もくるんです。もう一つは白鳥テラスがあること。子供を連れて冬でも皆が関わります。白鳥は十年前から始めて、エサを与えるので年々増えています。

中川 ■ 陰の沢の崖にいるハヤブサは渡り鳥のコースだからですか？  
伴野 ■ ハヤブサはそこに巣があって、とどまってるんですが川の下へも来ているようです。オジロワシも上空に飛んでいますし、黒澤さん達が放流したコイなどを食べにアオサギも来ています。

幌別川にカワセミもいるのですが、生息できる環境が残ればいいと思います。黒澤 ■ ダムを造ったとき回りの環境も考えて、沼地やヨシ、ススキなどを残していたら、魚の産卵場所や鳥にもいい。できているものはしょうがないが砂防ダムに漁道をつけたいですね。  
中川 ■ 確かに、砂防ダムに漁道はかなり増えました。日本海側ではほとんどついているようです。

伴野 ■ 願わくば、ダム自体にも漁道がついてほしいですね。  
全員 ■ そうなれば素晴らしい事ですね。高見 ■ 今後の活動予定はどうですか？  
黒澤 ■ 「日本釣振興会」から毎年

「キヤッチ・アンド・リリースで人と魚が共存できる川に…」

「幌別川を育てる会」 中川 雄三さん

〔富士町在住45歳〕



「幌別川を育てる会」ヤマベ稚魚放流

「自然を楽しんで体験してほしいですね。」  
「ヨシキリの会」 伴野 俊夫さん



予算を頂いて、今年は夏場の白鳥テラスの利用にとコイを放流しました。毎年放流内容は違いますが子供達には自然にふれあってもらいたいですね。  
中川 ■ ニジマス放流後釣り大会等あったようですが、今後キヤッチ・アンド・リリースの講習などしたりマナーを教えていきたいですね。

黒澤 ■ 審査方法も変えて行きますし、まずは興味をもってもらいたいです。  
伴野 ■ 僕は、探鳥会を主とした自然観察会、講演会を開いて行きたいです。市広報にも毎回鳥の紹介をしていますし、パネル展も行いました。ゲーム的要素をもっと取り入れて子供達でも楽しめる内容にしていきたいです。

ダムから下がフィールドですが、堤防を境に外は住宅街、内は淵や瀬もあり、草が生え、鳥や虫もいて、その間というのは街の中のどこにもある環境ではないから大切にしたい。いつまでも保存していきたいできれば、増やしたい。そのためには先程の活動を一つ一つ積み重ねていきたいですね。  
中川 ■ 自分たちの手で魚をふ化させ、育てていく川、人と魚が共存できる川

にしようと、それを「魚のサンクチュアリ」A聖域V計画」と名づけました。今年五月にヤマベの稚魚を登別市と道立水産孵化場の協力で放流し、一カ月後に追跡調査をしたのですが、その後釣り人が多く入ったようで稚魚の生息が心配されます。せめて再来年夏まで稚魚釣りをやめてもらいたい。

今秋に再度調査を行い、発眼卵の放流も予定しています。稚魚の誕生浮上ウォチングを企画して子供達に見せたい、より多くの人に興味をもつていただけるような催しを企画していきたいと考え、一人でも多く会員になってい

だいて、啓もうを広めていきたいです。  
高見 ■ 私自身「いきいき人とまち推進会議」のA自然と生活との調和V部会で数年間、鉾山地区にテーマを絞って活動してきました。個人的な考えとしては、施設造りや整備は二の次、それぞれの人々がA気づく事V、そのために何をすることが大切と思うようになってきました。今回、各会の皆さんのお話を聞いて、一本の川を通して関わっている活動内容はそれぞれ違っていますが、思いは一つだなと感じました。そして、関わり方の違いから再度、自然の生態系の重要さを認識しました。

この交流をきっかけに情報交換等をおこなってネットワークを広げ、今後のより良い活動に活かしてほしいと願っています。ありがとうございました。  
後記 ● 対談内容のほんの一部しか紹介できず、各会皆さんの思いを誌面で充分お伝えすることができなかつた事が非常に残念でした。

- 「(財)日本釣振興会」 連絡先/ ☎ 7393 [黒澤宅]
- 「ヨシキリの会」 連絡先/ ☎ 7515 [伴野宅]
- 「幌別川を育てる会」 連絡先/ ☎ 2210 [中川宅] 事務局/ ☎ 8860 [千葉宅]
- 「いきいき人とまち推進会議」 事務局/ ☎ 1122 [市企画調整室]

# 高齢者の生涯学習

私たちの平均寿命は年々伸びて世界の長寿国の一つに数えられるようになりました。登別市の場合も六十歳以上の人口は、約一万一千人を超えています。このように、長寿時代を迎えて老後をどう生きるか、私たちに与って大きな課題になってきています。

北海道高齢者問題研究会の調査で、高齢者の日常生活で最も心掛けてのこととして、「健康」や「食事」、次いで「睡眠」「頭を使う」「外出や付き合い」などとなっており、このことから年を取るとともに心身の衰えに対する備えが大きな関心事になっていることが分かります。



ゲートボールを楽しむお年寄り

市では、昨年十一月に六十五歳以上の市民を対象に実施した「登別市高齢者ニーズ調査」によれば、「普段から健康に気を使っている」と答えた人は、全体の八十九%余りと高い割合を示しており、女性がやや多くなっています。そのうち、「休養や睡眠・規則正しい生活」、次いで「食事」「薬」に強い関心が示されています。

また、現在働いていると答えた中で、一年間を通して働いている人が五十六%余りあり、男性より女性の方が多くなっており、働く意欲の面では、男性も女性も年齢とともに「働きたい」とする人の割合は減少し、「のんびりしたい」とする人の割合は増加しています。

社会参加については、「老人クラブの活動を通して」社会参加をしていると答えた人が十七%余り、次いで、趣味のサークル活動や町内会活動の順になっており、何もしていない人が三十二%余りと高い割合を示し、男性の方が参加の割合が高くなっています。

次に、生涯学習については、「ぜひ参加したい」という人は七・六%、「暇があれば参加したい」と言う人が二十五・五%で生涯学習に関心をもっている人が合わせると十三%余りあります。「参

加したくない」という人が二十六%余り、無回答が四十%余りとなっており、男性がやや意欲的な傾向を示し、男性も女性も年齢に伴って減少していく傾向にあります。

生涯学習に関心を持っている人のうち、男性は、盆栽やカラオケなどの趣味や娯楽、次いで時事問題や社会生活に関わること、郷土史・俳句・文芸などの教養・専門的な学習となっており、女性では、男性とやや似た傾向が見られますが、二番目に家庭生活に関わることとなっているのが特徴的です。



登別市の場合、高齢者の生涯学習に対する関心は必ずしも高いとは言えないように思われます。

急速に進む社会の変化や高齢化の中で、老後と心豊かに生きがいのある生活を送るためにも、社会参加や生涯学習に意欲的に取り組むことは、一層大切になってきます。

生涯学習推進室



僕は一般的にセキレイと呼ばれていますが、本名はハクセキレイなんです。名前の通り全身は白っぽくて、ところどころが黒いんだ。僕のチャームポイントは尾が長くスマートなところなんだけど、羽を広げると白と黒のコントラストが美しいと言われちゃってね。僕たちの多くは水辺に集まるけど、にぎやかな町中が好きな変わり者もいて、アスファルトの路上で虫探しをするんだ。巢は、置きっぱなしの自転車のカゴや自動車のボンネットの中なんかにつくったりして、人間様を「あつ」と言わせることもあるんだよ。十一月末になるとほとんどが本州へ渡り、数千羽単位の集団で都心のビル街を夜のねぐらにして生活しているんだ。



鳥名 ハクセキレイ  
 観察時期 十一月まで  
 (文・写真提供 日本野鳥の会 会員ヨシキリの会)  
 > 問い合わせ 伴野さん (☎7515)

## 友達の輪

「数ある文芸の中から俳句を選ばれた訳と、そのきっかけを伺いました」

「登別には昭和三十五年に主人の転勤で来ました。しばらく新和会の幼稚園に勤めていたんです。やめて、先の事を考えたら何を



荒井宝子さん(70歳)  
中央町在住

「か迷って、何でもやってみたんです。でも家庭の事もきちんとして、一人になってもできることって考えたのね。」

私は、昔文学少女だったの、本ばかり読んで目を悪くしたんですよ。晩年は短歌を読んだりお花を生けたりして余生を過ごすのが娘のころからの希望でした。

それがたまたま市で俳句教室の受講生を募集してたので、で行ったんです。そうしたら参加者は私一人で、「入ったらやめられないよ」って言われたの。ホントそうですよ。泥沼ですよ(笑)それで、続けて十七年になるんです。始めて三十年、四十年と俳歴の古い方がたくさんいらっしゃるんですよ。いろいろな結社に所属なさる荒井さんですが、俳句を続ける苦勞や感性を失わないための工夫などお聞かせください。お年寄りに教えていますが、難

しいって言う。俳句は、たえずくまなく何でも見て、しかも深く観察するってことが、大事ですからね。だから創造するものは何にでも生みの苦しみがあってもいい。辞典、漢和辞典、広辞苑を積み上げて作ってますよ。本当に苦しい、こんな苦しい事なんですかのって思いますよ。でもやめられないのね。

「荒井さんは、シャンソン歌手の荒井洗子さんのお母さんです。洗子さんはステーションが休みになるお正月にお母さんを旅行に連れて行くこととです。」

旅行中も感動したことはすぐに句にします。そうしないと忘れてしまうのね。早速、旅先での俳句を見せていただきました。炎昼の菩提樹の影情むのみ夕焼けや豊かにメナム川流れ

バンコックで読んだものです。山野草の会にも入っていました、咲いている花の名を覚えて、俳句にします。今は、何をしても俳句につなげようとするんです。

でもね、年齢と共に感度は鈍り、新鮮な感覚が薄れて行くことがものすこい焦りです。失われて行くものは、押さえることができないでしょう。私は今、葛藤の時期です。だからそれに代わる何かを見つけないと、探しているの。たえず本を読んで勉強して、簡単な週刊誌なんか読んでね。そうしないと感覚がズレてくるのね。時代感覚が。どんなものからでも、それなりに吸収するの。

「心のみずみずしさを保ち続けている荒井さんには、人生の先輩として学ぶところが多かったです。」  
▲市民リポーター 小松裕子  
次回は、富士町にお住まいの大塚次郎さんです。

## となりまち

## ほっとライン

## 室蘭市



豪快な波と華麗な技を  
たんのうしてみませんか

イタンキサーフィンクラブカップ

夏に燃やしきれなかったエネルギーを一気に燃焼しようと、イタンキ浜でサーフィン大会を開きます。道内のサーフィン仲間が集うクラス別(初級、中級、上級)の個人競技で、色鮮やかなウエットスーツに身をまとい、波に乗ってスピードとテクニックを競い合います。みなさんも豪快な波しぶきと華麗なサーフィンテクニックを見てみませんか。

▷日時 9月12日(日)午前8時から正午

▷場所 イタンキ浜

▷問い合わせ イタンキサーフィンクラブ

平岡さん(☎06608)

## 伊達市



みんなの家庭健康教室に

ご参加ください

日本人の死亡原因の一位を占める「がん」。「長寿とがん」をテーマに「第41回みんなの家庭健康教室」を開きます。「がん」に対して家庭ではどのように対処し、予防をしていけば良いのか、この機会にご一緒に考えて見ませんか。

▷日時 9月30日(木)午後1時30分から午後3時30分まで

▷場所 ホテルロイヤル(末永町・国道37号沿い)

▷講師 北海道医師会道民健康教育センター長 小林博先生

▷入場料 無料

※直接会場にお越しください。

▷問い合わせ 伊達市保健センター

(☎01423331)



# 郷土史点描

登別郷土文化研究会 宮武紳一

40

## 登別の開拓と

### 白石城主片倉家との関わり

その1

幌別郡の地たるや——幌別川がその中央を流れアイヌ人家屋が点在しているが、その他の家屋にいたりては古来より通行屋と称する木造榎ぶきの一家屋と東海林栄蔵なる者が営む掘立小屋一棟あるのみ。路と言えども海岸に沿って屈曲せる小路なり。

今から百二十五年前（一八六九）賊軍として敗戦し、白石城は接收領土も没収された片倉家と家臣らは、主家再興の為に「蝦夷地開拓移住を志し、併せて北辺の守りに就き勤皇の実効を奏して賊軍としての罪の万分之一を償いたい」など請願をしていたが、之に対し「胆振国のうち幌別郡の支配」を太政官から仰せつかったので、支配地受け取りのため、もと家老本沢直養ら九名は白石を十月九日出発、四十六日もかかり、苦勞して着いた片倉家の新領地「幌別郡の情景」を表したのが冒頭の文である。このようにして、片倉家と旧家

臣の幌別郡（登別市）開拓が始まった。主家の片倉家は明治四十年白石に引きあげたが、登別市には白石城を形どる資料館・刈田神社境内にある開拓記念碑・片倉町の町名などが残され、今年には登別市と宮城県白石市が姉妹都市提携を結んでから十周年を迎えるなど絆は一段と深まっている。

白石城主片倉家とはどのような家柄で、何故幌別郡の開拓に従事したのか、概略は前記の通りであるがもう少し考えてみよう。

時代は少し昔にさかのぼる。

片倉氏の姓は、藤原氏から分流した「加藤」の姓を居住地「信州片倉」に因んで「片倉」と改姓し南北朝時代は南朝側といわれるが厳密には後年の仙台藩主伊達政宗の祖父晴宗に仕えてから系統も明確になるといふことであろう。

片倉氏の初代片倉小十郎景綱は十九歳の時、九歳の伊達政宗に仕え、伊達氏を東北一の雄藩に育て

あげた優れた人物である。

今から約四百年前、大坂方の石田三成らと江戸の徳川家康側が戦う、天下分けめの関ヶ原の合戦がおこるが、その前ふれの戦いが東北で徳川側に味方した伊達政宗と、上杉景勝の間に開始される。

此の時、政宗の家臣であった片倉景綱の長男十七歳の重綱は、上杉方の居城「白石城」を攻撃し城の西南石垣をよしのほって、「白地に黒鐘」の片倉軍旗をうち振りながら一番乗りを声高らかに名のりあげ、奮闘し白石城は落城する。

この白石城攻略の手柄によって伊達政宗から初代の片倉景綱は白石城を賜り、録高も一万八千石、代々伊達家の家臣として仕え、伊達家重臣席の中にも、末席・一門・一家・準一家・一族などの身分制の中で一家に所属していた。

また、江戸時代、徳川家に仕えた大名（藩）の中で、城をもてない無城主もいかに、伊達家の家

来（陪臣）の片倉家が白石城主であるのも特例で、徳川家康の厚い信任があったからであろう。

さて、江戸時代も終わり近くになると、日本の政治情勢は外国船の来航から大混乱におちいり、外国を打てという「尊王攘夷運動」から「倒幕運動」に進展し、遂に幕府側と天皇中心の新政府側とで鳥羽・伏見の戦いが始まり、徳川家十五代將軍慶喜は朝敵となって敗戦、江戸城を明け渡すことになる。

此の時、東北地方の大名は、朝廷に降伏を表している会津藩を救うため、仙台藩を中心に片倉家の白石城に集まり新政府側に請願していたが、周防（山口県）の漁師から出世した新政府側の下参謀世良修蔵は、陳上した仙台藩六十二万石伊達慶邦を一喝する高慢さ、飽くまで「武力制圧」を唱えたので世良の暗殺が計画され、福島遊女屋「金沢屋」で遊興中、仙台藩主瀨川主膳らに捕らえられ翌日、寿川の川原で世良修蔵斬首、首は白石見捨川に投げられた。

新政府側の要人暗殺により奥羽越戦争になるが、兵器に劣る東北軍は随所に敗れ仙台藩も降伏する。

敗戦の結果、仙台藩六十二万石は二十八万石に減封。家来の白石城主十一代片倉邦憲は一万八千石から米五十五俵の現物支給、栄光に輝く白石城も没収、南部藩領となり彼等の支配下で「武士を捨て百姓になれ」という事であった。

## 受けて安心ガン検診 我が身も危ないガン死亡

登別市の昨年の死亡原因の中で最も多いのはガンで、死亡全体の二九・五%を占め、約三人に一人はガンが原因で死亡しています。この割合からいっても、ガンは決して他人事ではないことがいえると思います。また性別では、男性の方が女性よりも十%近くもガンで死亡する割合が高くなっています。しかし、市のガン検診では、男性の受診率が低く、女性よりも検診に対して消極的なようです。市では、図の

### ほけんだより

#### <死亡原因>

|    |     |      |         |
|----|-----|------|---------|
| 1位 | ガン  | 102人 | (29.5%) |
| 2位 | 心臓病 | 85人  | (24.6%) |
| 3位 | 脳卒中 | 63人  | (18.2%) |
| 4位 | その他 | 96人  | (27.7%) |

#### <ガン死亡の男女割合>

| 男性        | 女性        |
|-----------|-----------|
| 68% (69人) | 32% (33人) |

平成4年度末・登別市調べ

図のようないことがいえると思います。また性別では、男性の方が女性よりも十%近くもガンで死亡する割合が高くなっています。しかし、市のガン検診では、男性の受診率が低く、女性よりも検診に対して消極的なようです。市では、図の

#### <登別市のガン検診>



ような五つのガン検診を実施しています。いずれもガン死亡のなかで、高い割合を占めているものばかりです。ガンの種類によっては、かなり進行の早いものもあります。そのため、何年間に一度では手遅れということにもなりかねませんので、年一回、毎年継続して受診していただくことをお勧めします。特に男性の方は積極的に、ご夫婦であれば誘い合って一緒に受診しましょう。ガン検診の年間日程は、四月に配布した健康カレンダーをご覧ください。

▽問い合わせ 保健福祉課 (☎6421)

## 札内台地でハーベキュー 大地の祭典



昨年「クロスカントリーレース」の風景

札内町のソウシャルグリーンで「大地の祭典」が開かれます。大草原の空気をスパイスに、おいしいお肉をおなか一杯食べよう。

▽日時 九月十一日(土)午前十一時から午後八時まで、十二日(日)午前十時から午後四時まで

▽内容 野外ハーベキュー牛肉券千六百円(当日千八百円)羊肉券千四百円(当日千二百円)

羊の毛刈りショー、乾草投げ大会、熱気球試乗会、クロスカントリーレース(十二日午前十時スタート) 草原鉄人レースなど

▽問い合わせ 大地の祭典実行委員会(☎1158)クロスカントリーレース実行委員会(☎9963)

## 秋まつり

新鮮な海の幸がいっぱい

## 登別漁港まつり



昨年の「おらがふる里登別」のパレード

潮の香りが漂う登別漁港で「登別漁港まつり」が開かれます。食欲をそそるお店が漁港を囲い、秋の夜空を彩る花火はみものです。

▽日時 九月十八日(土)午前十時から午後七時三十分まで、十九日(日)午前十時から午後三時まで

▽内容 海産物即売、朝揚げ鮭の即売(整理券必要)、ジャンケン大会、おんなの腕相撲大会、花火大会(十八日午後六時三十分)、その他踊りのパレード、歌謡ステージなど楽しい催しがい盛りだくさん

▽問い合わせ 登別漁業協同組合(☎1321)

## まちかどぶらり

### 木製階段

#### 鷺別岬遊歩道

鷺別岬のふもとから頂上まで全長六百の遊歩道が完成しました。中腹の急傾斜地には木製の階段を設置。太平洋を一望する頂上付近からの眺めを一度楽しんでみてはいかがでしょうか。



#### 表紙のことは

「おめんはいかがですか」  
登別保育所でのお祭りごっこの風景です。保田さん手作りのおめんや焼きそば、おでんの小さなお店が並び、父母や子供達は楽しい夏のひととき過ごしました。

#### ひとの動き

■人口 56,969人  
(前月比 + 81)

■世帯 20,620世帯  
(前月比 + 33)

平成5年7月末日現在

#### 発行

登別市役所

総務部総務課広報広報係

☎0143⑧1130

〒059

北海道登別市中央町6-11

## 登別支所は九月二十日(月)から 婦人センター内に移転します

支所業務は、月曜日から金曜日(祭日を除く)の午前九時から午後五時三十分で、婦人センターは、年末年始の休日を除き通年開館と

なります。

▽新登別支所所在地 登別東町三

丁目六番地四(☎⑧1131)

▽婦人センター(☎⑧3511)

## ありがとうございました

#### ▽日本赤十字社登別市地区△

#### 北海道南西沖地震災害

#### 被災者への義援金

#### 七百九十一万七千四百円

北海道南西沖地震災害で被災した方のために、市民の皆様からたくさんの方の義援金が寄せられました。七月十四日から八月十三日まで寄せられた義援金は、百四十一件、七百九十一万七千四百円で日本赤十字社北海道支部を通じ、被災地の皆さんに届けられました。



市民の皆様の善意に対し、心からお礼申し上げます。

なお、義援金募集期間が九月十三日(月)まで延長されましたので、引き続きご協力をお願いします。

▽受付先 日本赤十字社登別市地区事務局(市役所社会福祉課内) ☎1911